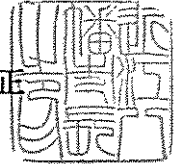


近八道河第107-b号
平成19年 5月 7日

国土交通省道路局長 様

近江八幡市長 富士谷 英正



中期的な計画の作成に伴う意見について (回答)

道路政策を考える場合に、全国の都道府県や市町村の実情を考慮することが必要であり、地域の都市形成の経緯や財政基盤によっても要求される道路政策は大きく異なってきます。

近年、各自治体のやる気を応援する法律が施行され、各自治体でも健全財政の確保に向け様々な政策を研究していますが、政策形成において道路形態は重要な要素の一つであり、今後、策定される中期計画においては、地域の実情に即した計画の策定を願います。

【・ 重点化を進める上で特に優先度の高い施策 】

1. 地域の自立と競争力強化

1. 高規格道路とのアクセスポイントを増加する。(スマートICの設置)
2. 第二名神やバイパス等の整備による渋滞の解消
3. 地域高規格道路の設置
4. 交差点の立体化
5. アクセス道路の4車線化
6. 付加車線を設けた交差点改良

名神高速道路のインターチェンジの有無は、その周辺地域における経済格差を生んでいます。地方財政の基盤強化において企業誘致をはじめとする地域経済活性化の努力は、インターチェンジにどのようにアクセスできるかによっても左右されます。さらに、地方部における道路網の整備は、都市部のものとは大きく性格が異なります。地方部において道路網とは生活交通網であり、学校・駅・公共施設及び商業施設などとの連絡・通勤交通網です。

また、国道477号、県道及び幹線市道とJR琵琶湖線との平面交差が11箇所、国道8号及び市道と近江鉄道との交差が12箇所あります。その中でも、非常に大きな交通上の問題がある交差点が国道の1箇所を含め計3箇所あり、踏切の早期改良が望まれています。

2. 豊かな生活環境の創造

1. 国道の歩道については、現在の規格に合った自転車歩行者道の整備
2. バリアフリー化
3. 歩道橋などによる歩行者と車の明確な分離
4. 国道敷きの災害時における緊急ヘリポート活用
5. 橋梁や道路付属物などの耐震対策
6. 国道敷きに埋設されているライフラインを点検整備できる共同溝化

近江八幡市内の国道8号では、歩道整備は殆ど進んでおらず、部分的には設置されていますが、構造はマウンドアップ型が多く、また十分な歩道幅が確保されておらず段差も多いため、利用者、特に子どもや高齢者、身体障害者にとっては危険な状況であります。

同様に、市街地を通る主要地方道についても交通量の増加に伴い通過交通量が増加し、学生の通学にも危険な状態となっています。

また、滋賀県では、琵琶湖西岸断層帯が一つの断層として活動し、今後30年以内の地震発生率は0.09%から9%と言われており、最大値をとると活断層の中では高いグループに属しています。

近年発生しています震災では、道路の分断により集落が孤立する事態が発生するなど、ライフラインの確保が重要であります。

【・ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと 】

1. 事業の進捗管理
2. 入札及び契約の適正化

今後の道路政策には道路建設、改良、維持管理についての中期的な計画が必要であり、計画の策定には地域参画が重要となります。

計画については、徹底したスケジュールとコスト計画策定を行い、作成された計画を公表し、単年度の実績についても毎年公表することで、市民の理解を得ることが可能であり、主管省庁は、市民に受け入れられた計画の内容や実績について、道路特定財源から柔軟に交付金、補助金の交付を行うことにより効果的な整備が可能となります。

また、更なる公共事業の入札及び契約の適正化を図るとともに、技術開発を通じたコスト縮減・事業の迅速化を図ることが重要です。

【 ・ その他、道路施策や道路の整備・管理全般に関する意見 】

1. 収用手続きの簡便化
2. 沿線住民と協働での維持管理体制づくり

道路の維持管理は重要な施策であります但し広範囲での管理には一定限界があります。維持管理体制の強化を図るため、沿線住民と協働にて実施できる体制づくりを行うことが大切であります。

以上